

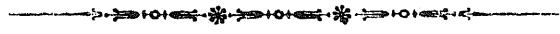
ありませんがやはり日本でも動物虐待があつて兒童虐待が無いと云ふことは必要がないと云ふ理窟から來たのではないのであつてやはり感情の表れの一つであらふと思ふ感情は其の性質上理窟を問はず表はれて來るから犬の怪我をして居るのを見て非常に可哀想だと思ふ人或は自分の家に飼つて居る猫が病氣して居るとそれを心配する人も女中に對しては手荒くする慘酷であると云ふのは人間は理窟のみで無くして感情が表はれて來易いから動物に對して同情が起つたからと云つて必ずしも他の場合にも何時も同情が起るとは限らない慈悲心の厚い人ならばそれは我々は用心をしなければならぬ或る場合に冷酷なことがある他の人には親切なれども家庭に於ては其の反對のもあるのである是が感情の特質である動物に對して表はれたる同情が兒童に對して表はれないと云ふことは一は感情の性質で一つは或る外國の眞似をしたのであらふと思ふ理窟を言へばどうしても兒童虐待防止會の方が早く行かなければならぬ又其の方が重くなければならぬ動物の虐待を防止するのは宜しいか

其の方の側の發達も希望するがそれ以上に兒童虐待防止會をすべきものであらふと思ふ今日は其の参考として外國に於ける兒童虐待防止會の大略を御話したのであります。

## 子供と談話

後藤ちとせ

夕餉すませて寢床に就いた幼児が添ひ寢の祖母の眠へと云ふのに、やい桃太郎のか譚をさあ舌切雀の續きをと毎日毎夜同じ譚を繰りかへさして喜び眠るのはよく見る所、私共もみんな斯様な時代を経過して來た事と存じます、元來人は社交的のものとや初生兒の折から既に自己の思想を發表し様とする衝動を持つて居ります單に思ひを發表するといふ丈に止まらず他人に了解し得らるゝ方法で之を表はさうといたして居ります、けれども極く幼少な時分には物もおぼえず言葉も知らず言語發達に必要な身体の諸機關も未だ十分には發育いたして居りませんから嬉しとは笑ひ苦しとは悶え空腹になつたとては泣き出すが如き至極簡



單な音聲身振等にて表情するに止まりませんが追々  
 心身の發育して發聲器械は發達し四圍の事物の觀  
 念も増し思想界が廣くなつて來ると共に周圍の人  
 々が使用して居る言葉の數々を聞き覺え一度其便  
 利さを味ふ様になりやすとさあ他の言葉をも覺え  
 込まうと八方から種々の言語を捉へて來て記憶す  
 るに従つて試用するはしこさは實に驚く許りにな  
 りますので六歳に至つて千五百語を知つたと云ふ  
 幼兒さへあると聞いて居りますので西洋の諺にも幼  
 兒等が母の膝下で學ぶ事は他日大學校で學ぶより  
 も多大であるとか申す言葉があります更に我國  
 では子供に脆い祖父父母が同居いたして居る場合が  
 多いので幼兒等は常に慈愛の籠つた老人よりの教  
 育をうけることが出來其間種々の談話を聞くこと共  
 に事物の道理扱ては世間の道德的觀念勸善懲惡  
 の思想を得る事甚だ多く忠臣愛國の情祖先を崇拜  
 するの念等は已に此間に吹き込まれて外國人の不  
 思議とまで思ひなせる大和魂を築き上げる基礎と  
 なるので御座います幼稚園幼兒等は方に此言語收  
 得を渴望する時代にありますので話す事を好くと

同時に人より話を聞く事も大層喜ぶ事です志言語  
 の發達は思想發達と多大な關係のあるもので御座  
 いますから例の施行規則第二百條にも  
 談話は有益にして興味ある事實及び寓言通常  
 の天然物及加工品等につきて之を爲し徳性を  
 涵養し注意觀察の力を養ひ兼ねて發音を正しく  
 し言語を練習せんことを要す  
 とありまして保育事項中缺くべからざるものとし  
 てあります  
 談話の價値  
 談話には保母が話して聞かすのと保母の間に應じ  
 て幼兒が主として話すのと二種類あります第一の  
 方は談話に於ける聞き方の練習即ち他人の言語を  
 了解するの練習となり第二の方は話し方の練習即  
 ち幼兒等が自己の思想を發表するの練習となるの  
 で此兩練習の間に幼兒等は發育も正しくなれば言  
 語も發達する且つ又談話に用ひらるゝ材料即ち話  
 題の如何によつて知識を増し思想を廣くし想像力  
 を養ひ同情心を強くし愛らしき幾多の教訓を直覺  
 して知らず識らず道徳心を強くし小さき頭腦に清

き理想を描く様になるのです近く例を桃太郎の昔譚にとりまするならば桃太郎の誕生及び其生育の様子を聞いては老嫗老爺が生育の恩に父祖母父母の慈愛を思ひ桃太郎從順の良性に倣はんことを望ましむべく其が鬼ヶ島への出發譚には桃太郎が勇氣義俠壯圖に感じ犬猿雉に關する庶物上の知識を明確にすると共に彼等が忠節なる働き振りや桃太郎動物愛護の情を嘉すべく渡航征伐凱旋には進取奮闘遠征の壯快なるを喜ばしめ己れ等も亦斯の如き温良にして而も勇壯なる男兒たらむ事を望むに至るべく其間屢おこる庶物話にて動植物に關する既知の觀念を明かにし同話數回の復習に依り幼兒が話し方の練習をなすを得る等保姆の手並の如何によりては幼兒をして喜悅快樂談笑の間に智徳兩育上少からぬ効果を收め得る事で御座います

談話材料の選び方

扱て斯く保育上有益な談話も其材料の如何に依つて其効果に差違あるは勿論却つて有害な結果を來すことがありますから其の選擇に注意せねばなりません。ところで學齡前の幼兒等に話して聞かす

譚には偶言あり童話あり史譚あり神話あり新作の御伽噺あり事實談話あり自然物又は人工品に關したるものあり幼兒各自の經驗が話題にのぼる事もありますが其中にも教訓的のもあり諷刺的のもあり知識を興ふるを旨とせるもあり無害にして唯幼兒の嗜好に適ひ興味を感ぜしむる丈のものもあつて宜しう御座います唯聞かして悪いと思はるゝのは

- 殺伐殘忍な話
  - 惡漢の成功した話
  - 復讐怨恨に關した話
  - 悲觀的思想を表はした話
  - 繼母のまゝ子いぢめの話
  - 其他人世暗黒の裏面を表はした話
  - 惡事の實例
- 等非教育的のものを避くべく且つ又

幼兒思想の發達程度に適合せざる六ヶ敷き大人に興わりても幼兒等に何等の愉快を感ぜざる話

等は採用せぬが宜しう御座います但し談話の材料も難なものを澤山に用ひますよりは精選した物を十分了解させる方が却つて有益で御座います

談話練習のしかた

言語の練習に聞き方話し方の兩様ある事は既に御話し致しましたが今此兩練習をさせるにつき注意すべき事柄をお話し致すことにします

(一) 聞き方の練習につき

聞き方即ち人の話を聞きとつて能く其意味を理解するの練習は主として保姆の談話を聞かしむるにありませす之をなすに當り保育者の注意すべき條項は

(第一) 保育者の用ふべき言語につき

(イ) 音調言語共に授業めかず演説らしからず講話らしからず至極自然で丁度母親が子供に祖父母が孫に昔話をするが如くあり

たきこと

(ロ) 言葉は明瞭で簡單で事柄の順序正しく混雜せず單純なる幼兒の腦裏によく收得し得らるゝ様注意すべきこと

(ハ) 親密にして而も野卑に流れず常に幼兒の模範語となるべき言語を用ふべきこと  
(ニ) 幼兒等が了解に苦しむ抽象的の語漢語等を用ひざることに注意し平易にして了解し易き語を用ふべきこと

(ホ) 言語調に抑揚頓挫あるべきこと

御話の進行の工合其内容の如何に依つて言葉にも相應な抑揚をつけ音聲の上げ下げ語勢の緩急話全体の波瀾等を考へて變化を好む幼兒をして聞くに倦ましむる事のない様に注意すべきは文を作るの際讀者をして讀むに従つて興を添へしむる様つとむべきと同様です例へば羅生門の譚に於て渡邊の綱が荒鬼と戦ふ所などは語勢烈しく音聲強く綱奮戦の有様を目に見る様に勢つたて話すべく鬼が乳母に紛して綱に面會を求むる所などは兩者の對話如何にもしんみりと懐しげに語るが如きで御座います而して是は幼兒の感情養成を主とした談話材料の時の事で庶物話其他

(一) 新しき言葉をつかふ時の注意

物事の了解を主として理科的の御話の際には言葉緩かに順序正しくしつとりと平調に話す方がよくわかる様で御座います。新しき言葉をつかふ時の注意。幼兒等は實物を知つて居て其名を知らぬ事があります、又名をのみ記憶して其實物の觀念の如何にもぼんやりして居る事もあります更に又名をも實物をも知らぬ場合も澤山あります、而し何れの場合にも其實物の觀念を明了にし同時に其名稱をも明かに記憶さすべきで實物を知つた上は其名を覚えることが早う御座います。けれども實物を示さず其名のみを話した場合は大抵あとかたも無く忘れてしまふが常で御座います扱て斯くして新しき物新しき名を話しましても幼兒に決して其記憶を命じ忘却を責めてはいけません。元來子供が母の膝下で種々の言葉をお覺ますのは母より故意的に教へられ復習されるのでなく大抵は所謂聞き覺るので一

(ト) 談話中に出で来る對話の取扱ひ方

度聞いては漠然おぼえ二度聞いては其れかと知り三度聞いては實物を思ひ出すと云ふ様にして終には明かに記憶し自由に其語を使用するに至るのです。幼稚園に於ては此自然の方法に依り幾回となく繰り返すうちに自然おぼえさすと云ふ様にしなければなりません。是れ小學校の教授と大に趣を異にして居る所です。但し以上は物の名に就いて御話したので御座いますけれども單に名詞にのみは限りません。凡ての言葉皆此聞き覺えの方法でだん／＼敷多く知つて来る様いたすべからざるべきで強て覺えさすと云ふ事は例の遊びを以て教育するといふ保育の主義に適はぬわけ御座います。談話中に出で来る對話の取扱ひ方。例へば「鬼と龜との話の場」に「鬼が斯く斯く申しましたら龜は云云と返事しました」と云ふ様に「申シマシテ」返事シマシテ「龜ガ鬼ガといふ地の言葉を長い會話

へ長々とくだくだ敷言ひ入れますと一体の語勢が緩るんで對話が生きくと聞えませぬ故談話中の對話には成可く地の文を挿ます而も其話し振りの工合により能く甲乙兩者の對話たる事を承知させる様に話さねばなりません

(第二) 談話内容につきての注意

談話の形式ともいふべき言語につきての注意條項はまづ右できりわけて次ぎには其内容なる御話其物の取扱ひ方につき述べること致しませう

(イ) 長き談話材料は幼兒の年齢譚の段落等を考へ之を適當なる敷段に分ち各段を一つの話として話し聞かしむること例へば

桃太郎の噺をば四段に分ち始の時間には其誕生及び生育の様を次ぎには鬼が島への出立及び道中を次ぎに征伐の模様と最後に凱旋の段を話すが如く致すのです

(ロ) 談話の内容を明かに了解せしめ且つ興味を添へ感じを深くするために實物標本繪

畫等の準備を要すること  
(一) 動植物を中心とした童話訓話御伽噺等には之等に關する庶物話を伴はしむること  
例へば猿蟹合戦を話題とせん折猿蟹其物の觀念を明了ならしむるが如し

(二) 談話内容中幼兒の想像し考察し得らるる箇處は保姆之を話し盡さず幼兒をして考へしむるを可とす

(三) 談話中の人物其他の性格はよく之を發表して幼兒をして同情心を起さしむべきこと例へば牛若丸の譚をなすにあたり常盤、牛若、辨慶等の性情自ら談話の中に表顯して幼兒をして能く此三者の境遇に同情し其性行の美なる點に敬服せしむるが如し

(ホ) 談話内容の難易と幼兒年齢の如何に注意し其了解に苦しましむべからざること  
同一の談話材料にても或は敷衍し或は簡略にして年齢異なる幼兒に話し聞かすことあるべきこと但し此際には如何なる點を

敷衍すべきか如何なる部分を略すべきかを考へて其話の主眼たり目的たる主意を忘れぬ様にしなければなりません

(ト) 形容のしかた

抽象的の形容は幼児にはあまり効験がありません花ちゃんとは美ちゃんとは大層仲よしで御座いましたと云つてしまひますよりは其仲よく遊んで居た事實を捉へて來て幼稚園の行き歸りも必ず一緒に連れ立ちしこと、一つの物も二人で分ちし事花ちゃんやんが轉んだ時には美ちゃんやんが能く介抱してやつた事、裏の栗をも二人で拾うたと云ふ様に話す方が宜しく、其野原は至つて綺麗な處でしたといふよりは花咲き鳥なき蝶舞ひ雲さまよふと云ふ様に事柄を話した方が宜しう御座います而し話の全体を悉く此筆法で敷衍し形容して行きました日には冗長に流れて却つて興味を殺ぎますから豫め事の輕重を考へ主要な點には十分力を入れて形容も

し敷衍もして話すべく比較的輕き部分は簡略に致すが宜しう御座いませう

(チ) 表情と態度

談話の際に於ける保育者の態度は落ちて居て居る物に動せず而も機敏で能く幼児の心的状態を觀破し得るが宜しくあります物靜かに昔話をして居る際に幼兒の裾に毛虫等の附いて居るのを見出す事もありますし突然異様な參觀人の入つて來る事もあり又は往來にとん／＼樂隊がやつて來る音の盛に聞える事もありませう其都度幼兒は直ちに注意を亂され易くわりますから保育者が餘程心が落ち着いて居て甘く之をひきまゝとめて行かなければなりません、談話に興味をつけるため且つ了解を助けるために態度様子等により所謂表情を上手にやるのは望ましい事で御座いませうが事々しく全身を打動かして身振り手似真を致すのは滑稽でいけません此種の動作は成る可く手輕で而も十分

表情し得る方法を用ひる様いたしたいも  
のです』

## 幼稚園に於ける 幼児保育の實際

某 女 史

是は某幼稚園に於ける最少幼児一組を担任せる  
某氏が一年間の受持幼児保育状態を概括して記  
述したるものにて實際家の参考ともならんかと  
茲に掲載することとせり。尙本篇完結の上は順  
次二の組一の組等年長者の保育状態をも掲載す  
る豫定なり。

### 一 幼 児 幼児四十名内男児二十名女児二十名

#### 二 保育事項の時間配當

最初入園の日より三日間は唯子供を部屋に入れ思  
ふがせゝに席を與へ話をして見たり名前を聞いて  
見たり時には六球、積木を貸し繪を見せて遊ばし  
めまた、子供の知れる唱歌を唱はしめなどして兎  
に角幼稚園に馴れしめんことをつとめたり。また

それと共に附添を離さしむる様仕向けたり。土産  
としてはつなぎ方の先に圓形の蝶をつけしもの、  
たゝみし帆掛船、豆細工、の魚などを與へたり。

明治四十一年四月十三日より

時	曜	月	火	水	木	金	土
九時	九時	會集	同	同	同	同	同
九時	分	内遊	同	同	同	同	同
九時	分	外遊	同	同	同	同	同
十時	分	積木	談話	書方	積木	六球	摺紙
十時	分	外遊	同	同	同	同	同
十一時	分	食事	同	同	同	同	同
十一時	分	支度	同	同	同	同	同
十二時	分	支度	同	同	同	同	同

唱歌は別に時間を定めず其時々子供に知れる  
ものをうたはしめたり

明治四十一年四月二十七日より

時	曜	月
九時	分	會集
九時	分	内遊
十時	分	外遊
十時	分	積木
十一時	分	外遊
十一時	分	食事
十二時	分	支度